



どうぶつ ブックリスト

①動物になって哲学する

動物たちはどんな風に考えているのだろう? 豚、タコ、コウモリ…。動物の立場から見れば、人間の世界は違って見えてくるかもしれない

1	てつがくのライオン 工藤直子 長新太 復刊ドットコム	「てつがくは肩がこるな。 おなかやすくと、てつがくはだめだな」 「てつがく」が気に入っているライオンの絵本。
2	MONKEY 柴田元幸 スイッチ・パブリッシング	「てつがくのライオン」の続編「で、どうだった?—てつがくライオンその後の日々」を収録。 ライオンのてつがくのようなすをみて「てつがくてき」になった、かたつむりやろば、わに、ワシのてつがく。
3	いきもの人生相談室 動物たちに学ぶ47の生き方哲学 今泉忠明 小林百合子 山と溪谷社	人間が悩んでいることは、動物にとってはなんでもないことかもしれない。生き方が全然違うので、役に立たない答えもあるけれど、よくよく考えると、ふしぎと納得がいくこともある。
4	人間の偏見 動物の言い分 高槻成紀 イースト・プレス	「パンダ」はかわいらしい動物で、「ヘビ」や「ネズミ」は汚らしい動物。人間は、動物たちに勝手なイメージを抱きがちだけれど、そのイメージはどこから来るのだろうか?
5	人間をお休みしてヤギになってみた結果 トーマス・ウェイツ 新潮文庫	【ヤギ】エリザベス女王だって悩む、けれど、犬は悩まない。将来の事、嫌なニュース、気候変動…人間にはいろいろな悩みの種がある。動物になって、こうした悩みを消したら、すてきなのではないか? かなり真面目に動物になろうとしたプロジェクトの記録。
6	絵とき ゾウの時間ネズミの時間 本川達雄 福音館書店	【ゾウとネズミ】ネズミの時間ははやく、ゾウの時間はゆっくり? 人間よりもずっと大きな動物、ずっと小さな動物がいる。彼らは何をを考えて生きているのだろう。
7	タコの心身問題 頭足類から考える意識の起源 ピーター・ゴドフリー=スミス みすず書房	【タコ】タコは賢いけれど、その神経のありようは人間と大きくちがう。腕に脳の二倍の神経があって、切り離された腕だけで、腕を伸ばしてものをつかむ。タコになったらどんな気分なのだろう?
8	コウモリであるとはどのようなことか トマス・ネーゲル 勁草書房	【コウモリ】コウモリは哺乳類だから人間に近い。けれども、その活動領域(暗闇)と感覚器官(ソナー)は、私達とはずいぶん違う。コウモリにとって、コウモリであることがどのようなことか、を人間は考えることができるか? この風変わりな問いを使って、「心身問題」という哲学の問題を考えた現代哲学者の論文。
9	4コマ哲学教室 南部ヤスヒロ 相原コージ イースト・プレス	【ブタ】生きる意味を探して旅に出た青年が、「食われるために生きている」というブタに会い、ショックを受ける。 青年とブタのかみ合わない問答を描いたギャグ漫画。 ブタから見ると人間の考えることはギャグなのかもしれない。
10	ゴリラからの警告 人間社会、ここがおかしい 山極寿一 毎日新聞出版	【ゴリラ】「ゴリラの国に留学してきた」と語る、京大総長になったゴリラ研究者が、ゴリラの目線で人間社会の不思議をつづった本。 動物の世界で当たり前だった食と住のあり方が、人間になってどのように変わったのか?
11	哲学者たちの動物園 ロベール・マッジョーリ 白水社	ショーペンハウアーの生涯の恋人は白いプードルだった。ソクラテスは電気魚の一種であるシビレエイに似ている… 古今東西の哲学者と、関係のある動物について書かれた本。お好きな動物をえらんで読んでみてください。「カントの象」「ニーチェのライオン」など。
12	動物誌(上・下) アリストテレス 岩波書店	天体学、物理学、気象学、数学、心理学など、さまざまな研究を行い、万学の祖とよばれる哲学者アリストテレスの一番の得意分野は生物学だった。そのアリストテレスが動物を研究した本。

②人間ってどんな生きもの？

人間も動物であるには違いない。でも、「単なる動物」ではない、という気もする。人間のどこが特別なのだろう？

- | | |
|--|---|
| 13 人間
河合雅雄
大月書店 | サルが進化してヒトになるってどういうことだろう？
文化や道具を持つ。狩りをする。これは本当にヒトにしかない特徴なのだろうか？サル学研究者が見た人間。 |
| 14 チンパンジーの心
松沢哲郎
岩波書店 | 人間は、チンパンジーと比べて、何か特別な動物なのだろうか？
チンパンジーは仲間を「だます」ことができる、まるで人間のようにかきこい動物である。
言葉を覚えたチンパンジー・アイちゃんのプロジェクトに携わった研究者の著書。 |
| 15 ダーウィンの種の起源
サビーナ・ラテヴァ
岩波書店 | はじめの進化論
人間はなにか特別なところがあるとしても、ほかの動物と全く無関係ではない。人間も動物も同じ生きものから進化してきたのだから。
ダーウィンの「進化論」が絵本になった。 |
| 16 人間の境界はどこにあるの？
フェリペ・フェルナンデス
=アルメスト
岩波書店 | 人間は他の動物と自分たちを区別すると同時に、自分達とは別のグループに属する人々に対してしばしば「同じ人間とは思えない」という思いを抱いてきた。
人間らしい身体はどんな身体か？人間らしい文化はどんな文化か？人間の境界を巡る、歴史上の様々な考え方を紹介した本。 |
| 17 ひとなぜ服を着るのか
鷲田清一
NHK出版 | 服なしには人間は生きていけない。こんな動物は人間だけだろう。
でも、どうして人間は服を着るのだろうか？ |
| 18 どうぶつにふくを着せてはいけません
ジュディ・バレット
朝北社 | ふくをきるどうぶつは、あんまりいない。
やまあらしはとんでもないことになるし、らくだは・・・ |
| 19 ホモ・ルーデンス
ホイジンガ
中央公論新社 | 人間はホモ・ルーデンスつまり遊ぶサルである。
ホモ・サビエンス(知性のあるサル)、ホモ・ファベル(工作するサル)など、ほかにもいろいろに言われるけれど、人間はどのような特徴を持ったサルなのだろうか？ |
| 20 アニマル・ファーム
石ノ森章太郎
筑摩書房 | 虐げられた動物が、農場から人間を追い出して、自分たちで理想の共和国をつくる。
ところが、新しい共和国もしいに墮落して行って、まるで人間の農場の様に・・・ジョージ・オーウェルの政治的寓話を原作にしたマンガ。 |

③動物に魂はあるか？

動物が動いているのを見ると、もちろん魂はある、と感じる。でもロボットだって動いている。動物とロボットは何が違うの？

- | | |
|--|---|
| 21 動物には心があるの？人間と動物はどうちがうの？
エリザベット・ド・フォントネ
岩崎書店 | しっぽをふる犬を見ると、うれしいのかな？と思う。けれども犬や、猫は言葉を話さないから、ほんとうはどう思っているのかわからない。そもそも動物に心はあるのだろうか？ |
| 22 動物に魂はあるのか 生命を見つめる哲学
金森修
中央公論新社 | 動物に魂はあるのか？それとも動物は感じることのない機械なのか？アリストテレス、デカルト、ハイデガー・・・哲学者たちが真剣に考えた動物の問題。 |
| 23 動物に愛はあるか I 死を悼むゾウ、盲目の仲間を導くネズミ
モーリス・バートン
早川書房 | 動物があたかも互いを思いやっているかのような驚くべき行動をとることがある。そうした行動の数々を報告している本。 |
| 24 ロボットからの倫理学入門
久木田水生 他
名古屋大学出版会 | 人間とどこが違うという点で、動物とロボットは少し似ている。たとえば、道徳的な判断が動物やロボットにできるのかは疑問である。
ロボットを巡る倫理的な問題についての入門書。 |
| 25 働きたくないイタチと言葉がわかるロボット
人工知能から考える「人と言葉」
川添愛
朝日出版社 | ほとんどの動物は、言葉を理解する知能は持っていない。
ところで、言葉を理解する知能ってどんなものだろうか？
イタチが人工知能を作ろうとする話を通じて、
言語と人工知能について学べる本。 |
| 26 せかいはいったいだれのもの？
トム・ポウ
評論社 | くまのせかいは、寝床の洞穴とエサのいる小川のある森のことで、それはくまのためにある。ライオンのせかいは、シマウマとレイヨウがいる草原で、それはライオンのためにある。
にんげんにとってのせかいは？ |

27	ハイデガーと生き物の問題	串田純一	法制大学出版局	ハイデガーはこんなことをいっている。「石は世界を持たない」「人間は世界を形成する」「動物は世界が貧しい」生き物についてのハイデガーの思想を研究した学術書。
28	生物学の哲学入門	森元良太 田中泉吏	勁草書房	進化論は世界について何を語っているのだろうか？生物を「種」に分類するということは、どういうことか？生物学について考えた哲学書

④オスとメスと生命の不思議

多くの動物にはオスとメスがいて、子どもを作ることができる。一匹一匹は死ぬけれど命はつながっていく。命ってなんだろう？

29	どっちがオス？どっちがメス？	監修／今泉忠明	学研教育出版	つもの先がハゲているキリンはオス？メス？動物のオスとメス。ほとんど同じに見えるけれど、よくよく観察すると、小さな違いが見えてくる。どうして多くの動物にはオスとメスがいるのだろうか
30	性 自分の身体ってなんだろう？	藤田尚志 宮野真生子	ナカニシヤ出版	多くの人間は、動物でいえば、オスカメスカどちらかの特徴を持っている。けれども人間にとって性は単にオス/メスの違いだけではなく、男性らしさ/女性らしさといった社会的な役割の問題にもなる。人間の性をめぐる様々な問題を扱った論文集。
31	最後の恋は草食系男子が持ってくる	森岡正博	マガジンハウス	「草食系男子とは、心が優しく、男らしさに縛られておらず、恋愛にガツガツせず、傷ついたり傷つけたりすることが苦手な男子」哲学者が書いた、オスらしくない男性と恋愛するための本。
32	哲人たちはいかにして色欲と闘ってきたのか	サイモン・ブラックバーン	築地書房	プラトン、アウグスティヌス、カント。アリストテレス協会会長もつとめたイギリスの哲学者が、古今の哲学者のこトバを縦横に引用して語った「Lust(性欲)」論
33	子供の哲学 産まれるものとしての身体	檜垣立哉	講談社選書メチエ	当たり前のことだけれど、人間のからだは誰かから生まれたものである。この当たり前のことを考えた、子供と妊娠の哲学。生まれてきた私とは何か？人はどうして子供を産もうとするのか？
34	いのちを“つくって”もいいですか？ 生命科学のジレンマを考える哲学講義	島蘭進	NHK出版	生命科学の発達によって、性格を薬で「治療」したり、産む子供を択ぶことも、技術的には可能になり、再生医療でからだを取り換える可能性も見えてきました。けれども、こうした技術は人間の生活をどう変えるのだろうか？
35	せいめいのれきし	バージニア・リー・パートン	岩波書店	地球のように、せいめいがうまれたときから、いままでのおはなし。主役の動物たち(でてくる順に):三葉虫、頭足類、うみさそり、魚類、両生類・・・
36	まんが哲学入門 生きるって何だろう？	森岡正博	講談社現代新書	生命って何だろう。死んで無になってしまうことがどうしてもイヤな「まんまるくん」が哲学する話。それなら生まれてこなければよかった？マンガはとも下手ですが、素人(哲学者)が描いているので許してあげてください。
37	ことりのおそうしき	マーガレット・ワイズ・ブラウン	あすなる書房	生きていたら、いつか死ぬ。死ってどういうことだろう、とむらうってどういうことだろう。「ことりが しんでいました」から始まるものがたり。
38	のにつき一野日記一	近藤薫美子	アリス館	自然の中で死んだ動物たちは、どうなるのか？イタチの死から始まるものがたり

⑤共に生きる

かわいいペット。恐ろしい害獣。私たちの社会の身近には色々な動物がいる。動物と一緒に生きるってどういうことだろう？

39	ブタとおっちゃん	山地としてる	フォイル	おっちゃんとブタが いっしょに生きている写真集
40	哲学者とオオカミ 愛・死・幸福についてのレッスン	マーク・ローランズ	白水社	ローランズはブレニンという名のオオカミを飼っていた。彼はたまたま大学の哲学の教授だったので、ブレニンを連れて大学に出、講義をし、暮らしていた。オオカミと共に生きるというのはどういうことなのだろうか？

41	岩合光昭の世界ネコさがし 岩合光昭の世界 株式会社クレヴィス	ネコは人間と共に生きるために品種改良をされた動物だ。人間は世界中に住んでいて、様々な生活を営んでいる。それで、ネコも人間生活に溶け込んで世界中に住んでいる。街、店、遺跡・・・かくれたネコをさがしてみよう。
42	「ペット」『マイクロ・エシックス』 土屋貴志 昭和堂	ペットはかわいい。けれども、そのかわいさはかわいがる人間が「ペット」に勝手に押し付けた価値だから、かわいがる人間がいなくなれば消えてしまう。「ペット」についてエッセイの外、「クジラ・マグロ」など。
43	マンガで学ぶ動物倫理 伊勢田哲治 化学同人	ペットのしつけは、人間のエゴ？人体実験よりも動物実験の方がマシ？なぜ家畜は食べてもペットは食べないのか？動物たちと関わる人間が会う倫理的な問題をマンガで分かりやすく学べる本。
44	ありがとう実験動物たち 笠井憲雪 岩崎書店	薬の安全性を確かめるために様々な動物実験が行われています。実験動物になるのはネズミさん、ブタさん、おサルさんなど。実験に使われる動物たちが少しでも快適に過ごせるようにとお世話をしている動物実験施設の職員のおはなし。
45	動物からの倫理学入門 伊勢田哲治 名古屋大学出版会	どんな人間も人権を持っている。白人であれ、黒人であれ、種の違いで差別をしてはいけない、と誰も考えている。でもそれなら人間という種と、豚という種の違いで差別をしてはいけないだろう。豚は人権を持つのだろうか？動物の問題から現代倫理学の基礎を学ぶ入門書。
46	動物の権利 デヴィット・ドウグラツィア 岩波書店	動物にも人間と同じ人権があるというのは難しいだろう。でも、椅子や石ころのように壊したり、蹴飛ばしたりしていいとおもえない。感覚を持つ動物には配慮されるべき権利があると考える著者による動物の権利に関する問題の概説書。
47	動物裁判 池上俊一 講談社	動物の権利が認められてくるのは20世紀の後半になってからだけれど、中世ヨーロッパでは、動物を訴えた裁判が珍しくなかった。人間の子供を殺した母豚は有罪、食べた子豚は無罪。甲虫の裁判は被告を召喚するのが大変だった。
48	風の谷のナウシカ 宮崎 駿 徳間書店	腐海に住むオームは、人間にとっては害獣なのだろう。でも、害獣ってどういうことなのだろう。アニメ映画では描かれていない壮大な物語を原作マンガでご覧ください。(2〜7巻は机の上にあります)
49	どうぶつ会議 エーリヒ・ケストナー 岩波書店	世界中の戦争を収めるために、何度も会議を開く人間たち。ロンドン会議しばい、パリ会議しばい・・・戦争をやめられた人間にかわって動物たちが会議を開く。
50	スピノザと動物たち アリエル・シュアミ・アリア・ダヴィル 法政大学出版局	スピノザの『エチカ』の思想が、動物たちとのかかわりで面白く描かれている本。蜘蛛、犬、ロバ、そしてキマイラやペガサスなど全30話。短い独立した話なので、何話からでも読める。

⑥動物好きの幾多郎

飼い猫の背中に人形をつけて、娘を笑わせ、シマウマとラクダの赤ちゃんが気になって、一人で動物園へ出かける。大哲学者の意外な一面

51	牝猫ムルの人生観 ホフマン 角川書店	ネコが書いた伝記。「おれは自分の伝記を世におくる。それはどういう修養をすれば偉大なる猫になれるかということ世の人に知らせるためである。」幾多郎はこの小説の主人公にちなんで一匹の飼いネコを「ムル」と名付けている。
52	西田幾多郎歌集 上田薫 岩波書店	「無口な父は、私達とは一日中口を利かない日も珍しくなかったのですが、そんなときでもよく猫に戯れておりました。この猫と父との日常はほんとうに御伽噺の様に美しいものでした」(わが父西田幾多郎) 幾多郎の娘の証言から、動物好きだった幾多郎の意外な一面を知ることができる。
53	続思索と体験 西田幾多郎 岩波書店	「猫も死んでしまった」エッセイ「暖炉の側から」には、京都大学退職後の西田の何でもない生活が描かれている。その寂しい生活に入り込んで、家に笑いの波を起こしていた「愛嬌者の猫」が死んだ。
54	論理と生命 他4編 西田幾多郎哲学論集Ⅱ 西田幾多郎 岩波書店	西田幾多郎は「生命」をテーマに色々なことを考えている。例えば論文『論理と生命』。彼は動物の世界である生物的生命とは別に、道具を作る唯一の動物たる人間の世界を「歴史的生命」という変わった言葉でよび、論じている。

まだまだある どうぶつを哲学するおすすめ本

- | | | |
|----|--------------------------------|-----------------------|
| 55 | ソクラテスになった猫 | 左近司祥子／勉誠出版 |
| 56 | シュレディンガーの哲学する猫 | 竹内薫 竹内さなみ／中公文庫 |
| 57 | 子どものための哲学対話 人間は遊ぶために生きている！ | 永井均／講談社 |
| 58 | 翔太と猫のインサイトの夏休み 哲学的諸問題へのいざない | 永井均／ちくま学芸文庫 |
| 59 | 倫理とは何か 猫のアインジヒトの挑戦 | 永井均／産業図書 |
| 60 | 100万回生きたねこ | 佐野洋子／講談社 |
| 61 | ねこ歩き | 岩合光昭／株式会社クレヴィス |
| 62 | オレ、カエルやめるや | デヴ・ベティ／マイクロマガジン社 |
| 63 | やっぱりおおかみ | ささきまき／福音館書店 |
| 64 | 哲学するゾウ フィレモンしわしわ | ミハエル・エンデ／BL出版 |
| 65 | どうぶつたちのナンセンス絵本 | マリー・ホール・エッツ／アノニマ・スタジオ |
| 66 | ペットは人間をどう見ているのか | 支倉楨人／技術評論社 |
| 67 | 生物から見た世界 | エクスキュル・クリサート／岩波文庫 |
| 68 | ラマルク 動物哲学 ダーウィン種の起源 | 小泉丹／大思想文庫 |
| 69 | 人間はどこまで動物か—新しい人間像のために— | アドルフ・ポルトマン／岩波新書 |
| 70 | 感情の猿人 | 菅原和孝／弘文堂 |
| 71 | 霊長類ヒト科動物図鑑 | 向田邦子／文藝春秋 |
| 72 | モラルの起源—実験社会科学からの問い— | 亀田達也／岩波新書 |
| 73 | なぜヒトは旅をするのか 人類だけにそなわった冒険心 | 榎本知郎／DOJINSENSYO |
| 74 | 生のものと火を通したもの | クロード・レヴィ＝ストロース／みすず書房 |
| 75 | ぼくのニセモノをつくるのは | ヨシタケシンスケ／ブロンズ新社 |
| 76 | 動物に愛はあるのかⅡ
ツバメの救急搬送、七面鳥の安楽死 | モーリス・バートン／早川書房 |
| 77 | 野生の思考 | クロード・レヴィ＝ストロース／みすず書房 |
| 78 | ロボットの心 7つの哲学物語 | 柴田正良／講談社現代新書 |
| 79 | 野生の知能 裸の脳から、身体・環境とのつながり | ルイーズ・バレット／インターシフト |
| 80 | 女の哲学 男とはなにか？人生とはなにか？ | 宇波彰 女性哲学研究会／PHP研究所 |
| 81 | 哲学のおやつ 生きると思死 | ブリジッド・ラベ／NHK出版 |
| 82 | 子どもだって哲学① いのちってなんだろう | 中村桂子／佼成出版社 |
| 83 | いのちのひろがり | 中村桂子／福音館書店 |
| 84 | 生命とは何か 物理学的にみた生細胞 | シュレディンガー／岩波文庫 |
| 85 | いのちとは何か 幸福・ゲノム・病 | 本庶佑／岩波書店 |
| 86 | 福岡伸一、西田哲学を読む 生命をめぐる思索の旅 | 池田善昭・福岡伸一／明石書店 |
| 87 | 生物と無生物のあいだ | 福岡伸一／講談社現代新書 |
| 88 | 生命観を問いなおす—エコロジーから脳死まで— | 森岡正博／ちくま書房 |

89 生命と倫理	寄川条路／学陽書房
90 生きる意味	オスカー・ブルニフィエ／世界文化社
91 生きる	立正大学文学部哲学科／春風社
92 哲学者190人の死に方	サイモン・クリッチー／河出書房新社
93 死	かるべめぐみ／大月書店
94 動物のいのち	J.M.クッツエー／大月書店
95 〈動物のいのち〉と哲学	コーラ・ダイヤモンド／春秋社
96 野生哲学 アメリカインディアンに学ぶ	菅啓次郎・小池桂一／講談社現代新書
97 わたしペットをかいたいの	ローレン・チャイルド／PHP研究所
98 ペットになりたいねずみ	ローレン・チャイルド／フレーベル館
99 近藤史恵リクエスト！ペットのアンソロジー	光文社
100 ドリームボックス 殺されてゆくペットたち	小林照幸／毎日新聞社
101 クマの子 太郎	今関信子／佼成出版社
102 外来生物はなぜこわい？①外来生物ってなに？	小宮輝幸／ミネルヴァ書房
103 はじめての狩猟	東雲輝之・外川英樹／山と溪谷社
104 日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか？	内山節／講談社現代新書
105 センス・オブ・ワンダー	レイチェル・カーソン／新潮社
106 みみずのカーロ シェーファー先生の自然の学校	今泉みね子／合同出版
107 はじめての宗教学 『風の谷のナウシカ』を読み解く	正木晃／春秋社
108 風の谷のナウシカ(2～7巻)	宮崎駿／徳間書店
109 ハチドリのはたとしづく	辻信一／光文社
110 西田幾多郎の生命哲学 ベルクソン、ドゥルーズと響き合う思考	檜垣立哉／講談社現代新書
111 植物の生の哲学 混合の形而上学	エマヌーレ・コッチャ／勁草書房
112 ウィトゲンシュタインの言葉×新世界『透明標本』	富田伊織／青志社

リストの本は、展示期間中は貸出できません。(3月13日から貸出)

